

令和5年5月8日

会員の皆様へ

日本産科婦人科学会 理事長 木村 正
日本産婦人科医会 会長 石渡 勇
日本産婦人科感染症学会 理事長 山田 秀人

5類に移行された後の新型コロナウイルスワクチンの妊婦への接種について

平素、コロナ禍にあつて、産婦人科診療にご尽力をいただき、まことにありがとうございます。

2021年末から流行している新型コロナウイルス、オミクロン株に対する妊婦へのコロナワクチン接種の重症化予防の有効性が証明され、Lancet 誌に掲載されました(1)。

この研究は、18か国での国際共同研究(INTERCOVID-2022 試験)で、4618人の妊婦を対象とした前向き観察研究です。オミクロン株が流行した2021年11月～2022年6月までの6か月間のコロナ感染妊婦について重症化リスクをコロナワクチンの接種方法別に検討されています。

COVID-19と診断された妊婦において、ICU入院や死亡といった重篤な合併症のリスクは、複数回ワクチン接種した場合74%(95%CI 48-87)減少、さらに追加接種した場合は91%(65-98)減少となった。mRNAワクチンの場合は、複数回ワクチン接種した場合は79%減少、追加接種した場合は94%減少となった。最終接種からの時間が短いほど重症化しにくい。以上のことから、この研究では、妊婦のコロナワクチン接種は依然として優先事項であると結論づけています。

この研究を始め妊婦の重症化予防や、母体からの受動免疫による新生児の重症化予防の有効性が引き続き示されています。2023年3月に開催された世界保健機関(WHO)、SAGE(Strategic Advisory Group of Experts)会議は、オミクロン株の感染状況下では、最終ワクチン接種が6カ月以上前の妊婦に対するコロナワクチンの追加接種を推奨しています(2)。

新型コロナウイルス感染症が5類となった後も、新たな変異株による再流行も懸念され、コロナワクチンの妊婦への追加接種が推奨されていることをご留意ください。

文献)

- 1) Villar J, et al., for the INTERCOVID-2022 International Consortium, Pregnancy outcomes and vaccine effectiveness during the period of omicron as the variant of concern, INTERCOVID-2022: a multinational, observational study, Lancet 2023; 401: 447-57
- 2) WHO SAGE roadmap on uses of COVID-19 vaccines in the context ofOMICRON and substantial population immunity, Last update 30th March, 2023, <https://apps.who.int/iris/rest/bitstreams/1495648/retrieve>